

スリランカ・コロンボのロングステイ事情

— 2014年の現地調査をもとに —

黒田 明雄

倉敷芸術科学大学産業科学技術学部

(2014年10月1日 受理)

1 はじめに

26年続いたスリランカの内戦は、マヒンダ・ラジャパクサ大統領の政権下で2009年5月に終結した。現在、経済発展を最重要政策に掲げ、6つのハブ戦略¹⁾を実施している。その一つが近い将来年間200万人の観光客を目指す観光ハブ戦略である。バンダラナイケ国際空港は、日本のODAによるインフラ整備が実施されている。スリランカ経済に精通した清水孝則氏は「一般的に日本人の認識は深くないが、今後ビジネスや観光、さらには、シニアの移住地としても十分に魅力的な土地であることは間違いない。」²⁾と述べている。

長期滞在の生活インフラ³⁾調査実施時期⁴⁾に安倍首相の来訪があった。メイン道路に両国の国旗がひるがえり、市内要所に両首脳の写真入りボードが見られた。英字新聞一面には日本語での来訪歓迎の見出しが掲載され、日本の経済・技術支援への敬意と期待の表れを感じた。

筆者はロングステイ財団の登録講師&登録ロングステイアドバイザー⁵⁾として、人気国マレーシアを中心にロングステイフェアやセミナー、個人的な相談依頼、問い合わせに対応している。

本稿の目的は、ホテル建設、インフラ整備が進むスリランカ・コロンボの総合的な生活インフラの現状と課題を把握し、長期滞在者のための相談活動に還元することである。情



図 スリランカ



写真1 来訪歓迎のディスプレイ

報収集は、在スリランカ日本国大使館、スリランカ政府観光開発局、旅行社ヤートラトラベル、スリランカ日本人会、私立総合病院、金融機関、交通機関、サービスアパート、スーパーマーケット、日本食材販売店などの関係機関でおこなった。また、生活実態を把握するために邦人シニア夫妻の住まいを訪問してインタビューを実施した。(2014年9月時点 1 Rs ≒ 0.8円 スリランカ通貨単位 Rs)

2 調査にあたって

スリランカ(旧国名セイロン)はポルトガル、オランダ、イギリスの植民地の影響を受けたインド南部に位置する島国である。面積は北海道の約0.8倍、中央部に紅茶栽培に適した産地を有する。人口約2000万人の多民族国家である。シンハラ語とタミル語が公用語であるが、ビジネスにおいては英語が重視される。

これまでにスリランカ出身の留学生から断片的な情報を得てきているものの、長期滞在に関わる総合的な生活インフラ状況を理解するためには、スリランカと日本の二つの視点を有する人々の情報が重要である。国際結婚によりスリランカに長く生活している邦人やスリランカでロングステイ中の邦人シニア夫妻などの情報が参考になった。また、滞在地の快適度に影響するインフラ、国民性、文化などについて理解を深めるには、生活目線での行動や現地人との接触が不可欠であり、フィールドワークの重要性がここにある。

また、コロomboの生活インフラ状況を把握するために、外務省在外公館医務官スリランカ情報及び在スリランカ日本国大使館情報、日本人会婦人部による改訂版「コロomboタウンページ」⁶⁾、JICA「コロombo生活情報」⁷⁾、長期移住生活をもとに情報発信しているサイト⁸⁾を活用した。

現地調査の効率を図るため、事前に国内及びコロomboの関係機関⁹⁾へメールや電話で情報提供や調査協力を依頼した。また、PERIPLUSの「Sri Lanka Travel Maps」や「地球の歩き方 スリランカ」のコロombo市内地図などで訪問予定機関の位置を確認し、それぞれの機関での確認事項を整理しておいた。

入国早々に、通信・通話用のSIMカードを購入し、関係機関や調査協力者に訪問や面会の再確認連絡を行い、調査や移動に役に立つ道路地図と市内路線バス地図を購入し、現地人に訪問機関までのアクセスを再確認した。

これらは調査の効率化に欠かせないことである。ロングステイに関する情報提供においては、最新情報が重要であるが、スリランカも他のアジア諸国と同様に、状況が刻々と変化しているので情報の更新が必要である。

3 アクセスと交通事情

エア・アジアはマレーシアに本社を置く航空会社で、アジア諸国に就航するLCCである。価格面から多くのロングステイヤーに歓迎されている。クアラルンプール国際空港

にKLIA2 (LCCターミナル)¹⁰⁾が増設され、羽田、名古屋、大阪との間を運航している。スリランカ・コロンボには、日本からKLIA2を経由して行きやすくなっている。直行便は成田発着のスリランカ航空だけである。他に、大韓航空、タイ航空、シンガポール航空などの乗り継ぎ便の運航もある。

1) 空港－コロンボ市内を結ぶバス

空港を出ると市内へ向かう高速道路経由のバスに乗車した。日中の便数は多い。エアコン付の古い大型バスである。席が埋まれば出発する。市内に入ると渋滞が始まる。人と車両で混雑したコロンボ・フォート駅付近のセントラル・バスターミナルに約1時間で到着する。市内まで35km、120 Rsでタクシー運賃(30US\$)に比べて非常に安価である。

帰国の際にはコロンボ・フォート駅の民営バスターミナルから187番空港行バスに乗車した。日本製の古いエアコン付マイクロバスを使用している。運賃は1人120 Rsであるが、荷物で座席を占有すれば倍の運賃が請求される。激しい渋滞の中、市内の各バス停で乗客を乗せながら空港へ向かう。約1時間半を要した。

2) 三輪タクシー

現地ではトゥクトゥクと呼ばれ、東南アジアでよく見られるインド製の2人乗り小型三輪タクシーである。コロンボ市内の至るところで乗車可能である。初乗り1km 50 Rs、市内であれば300 Rs程度で移動でき、安価に利用できる庶民の乗り物である。メーターの設置が義務付けられているが、観光客と見ると、メーターを使用せず高めの値段を言っ



写真2 三輪タクシー「トゥクトゥク」

くるドライバーもいる。市内の地理や交渉の仕方に慣れれば、便利に使える乗り物である。英語で区(コロンボ市内は15区に分れる)・道路名・目印となる目的地を告げると伝わる。自家用車を所有しない長期滞在には、複数の顔見知りのドライバーがいると市内の移動に重宝する。

3) タクシー

エアコン付軽四サイズのタクシーは、三輪タクシーのように台数が多くなく、予約や呼び出しが必要である。市内にはバジェット・タクシーやナノ・キャブなど複数の軽四タクシー会社がある。運賃は三輪タクシーより少々高い。普通車やミニバンタイプのタクシーもある。

日本語と英語に対応できる運転手や添乗員が案内するタクシー会社もある。コロンボ市内から世界遺産のシーギリアへ日帰り観光で、日本語ドライバーのタクシーをチャーターすると2万円程度の経費がかかる。¹¹⁾

4) 市内路線バスと中長距離バス

市内の路線バスには国営と民営バスがある。古いバスでドアと窓を開けたままで走行している。バス停には時刻表やルートの記載情報がないし、車内案内もないので、バス番号とルートを記載した地図や道路地図が役に立つ。乗りこなすコツは、バス停で待つ複数の乗客に行先付近の目印を尋ねておいた上で、乗車前にバスの切符係か運転手に再確認することである。乗車後は周囲の乗客に降車するバス停での声かけを依頼することである。市内の移動は距離に応じて 10 Rs か 20 Rs であった。整備の行き届いたバスではないが、便数が多く安価であるので利用価値はある。コロombo・フォート駅付近は複数のバスターミナルがあり、常時混雑している。



写真3 コロombo市内の民営路線バス

コロomboとゴール間 116 km の一般道を通るノーマルバス 147 Rs、エアコン付のインターシティバス 295 Rs、高速道路経由のエアコンバス 470 Rs と利用するバスにより値段が異なる。日本製の古いマイクロバスを使ったインターシティバスに乗車したが、強引な追い越しをかけるので乗り心地がよいとは言えない。

5) 鉄道

鉄道はすべて国営でコロombo・フォート駅を基点に放射線状に運行している。1～3等の座席があり、運賃は非常に安価である。世界遺産の町キャンディへは、7:00 発にエアコン付特別車両が接続され、車窓からの眺めを2時間半楽しむことができる。車両は古く未整備箇所が目立つが、片道 1450 Rs の運賃で軽食と飲み物が付く。特別車両、1等、寝台



写真4 コロombo・フォート駅(11区)

車の座席はサイトや予約カウンターで予約可能である。フォート駅に「Rail Tours」が設置され、鉄道利用の案内サービスを受けることができる。

駅構内への出入りは切符を買わなくても自由にできる。通勤時間帯の満員電車、枕木やレールを素手素足で取り換える作業員姿、線路に散乱したゴミ、物乞いをする人等、駅構内で目にする事象はスリランカの現状の一面を伝えてくれる。

コロombo市内においては、鉄道は路線バスに路線や便数の点で及ばない。各都市間を結び全土を網羅するのは中長距離バスであるので、鉄道とバスを組み合わせれば効率的な利用が可能である。

4 査証とロングステイ

2012年1月から入国に査証の取得が必要となった。内戦終結後、外国人旅行者数は2012年約100万人、2013年約127万人である。その中で日本人旅行者数は2012年約26万人、2013年約3.1万人と増加傾向にある。¹²⁾

2012年4月から30日間の短期査証ETA（Electronic Travel Authorization）が導入され、オンラインで観光査証（Tourist Visit Visa）の申請ができるようになった。スリランカ出入国管理局公式サイト¹³⁾で必要事項を記入し、30US\$の取得費をクレジット決済後、査証承認証が返信されてくる。入国時のETA申請は可能であるが、35US\$かかり時間もかかる。市内10区にある出入国管理局で、入国日から90日までの延長は可能である。最大180日まで延長が認められる場合がある。この査証を利用すれば、1～3ヶ月、6ヶ月のロングステイが可能となる。シニアの年単位のロングステイを可能にする「Sri Lanka My Dream Home Visa Programme」に基づいた「Dream Home Visa」¹⁴⁾という査証がある。この査証の認知度は低い。ポイントは以下の通りである。

- ・ 55歳以上の外国人シニアが対象
- ・ 更新可能な2年間の滞在査証である
- ・ 15000US\$以上をスリランカの銀行に預金すること
- ・ 毎月1500US\$の生活資金を有すること
- ・ 過去6ヶ月間の無犯罪証明書
- ・ 配偶者がいる場合は結婚証明書

ビジネス、NGO、学生、宗教に関わる滞在の場合は、1年更新で最長5年間の滞在が認められる居住査証（Residence Visa）がある。これは「Resident Guest Scheme Programme」に基づいたものであり、この中の「Investor Category」は、スリランカ経済に貢献する意図で設けられた特別居住査証である。ポイントは以下の通りである。

- ・ 更新可能な5年間の滞在査証である
- ・ 申請者の家族にも同じ査証が発給される
- ・ 25万US\$以上（同伴家族一人につき3.5万US\$追加）をスリランカに投資をすること
- ・ 毎月2000US\$（同伴家族一人につき1000US\$追加）以上の生活資金があること
- ・ 3年を経過すると市民権の申請権利が得られる

調査期間中に「Dream Home Visa」で滞在している邦人情報はなかったが、投資による居住査証を取得してロングステイ中の邦人シニアA夫妻から話を聞くことができた。円安ドル高と円高ドル安の時期では、査証取得費用が大きく異なる。「Dream Home Visa」はタイのリタイヤメントビザ条件¹⁵⁾に近く、マレーシアのMM2Hビザ取得条件と比較すると取得のハードルは低い。ただし、現時点では邦人シニアの長期滞在をサポートする会社や余暇を楽しむ組織はない。今後、スリランカは邦人にとってロングステイ候補

地になる可能性はあるが、生活費に占める賃貸費用や英語力の必要性などを総合的に考慮の上、ロングステイの判断をすべきである。

5 住居情報



写真5 ヒルトン・レジデンス(2区)



写真6 サービスアパートのキッチン(7区)

富裕層やステータスの高い外国人が長期滞在する Hilton Colombo Residences の管理職 LR 氏は、タイのチェンマイのロングステイのコストの安さと比較して、コロombo市内の2、3、7区の賃貸ユニットの価格の高さを指摘した。¹⁶⁾ 駐在中のある邦人管理職は、月額約1500US\$のサービスアパートを年契約で賃貸していた。組織という後ろ盾がある駐在員は、安全面からセキュリティ付のユニットに住み、多くは運転手を雇用している。

年金暮らしの退職シニア夫妻が自家用車を所有せず当地に住むことを仮定して、現地の物件サイト¹⁷⁾や日曜版新聞、ホテル予約サイト・アゴダの情報から、2、3、7区の賃貸サービスアパートをいくつか見て回った。コロombo市内の立地条件がよい地区で、一定レベルのユニットを年契約すると、月額1000US\$ (10万円以上)は相場である。これまで調査したアジア諸国の賃貸価格と施設内容を比較すると高く感じた。

既に4年間ロングステイ経験のある邦人A夫妻のサービスアパート探しの経験から住居情報を得た。A夫妻は、明確な滞在目的をもち、英語力があり自立生活をしている。静かな住宅街にある4階建サービスアパート4階の約60坪のユニットに居住しており、3ベッドルーム+LDK エアコン完備、ベランダや居間からの見晴らしのよい住居である。賃貸費用は年契約で月額12万Rs (約10万円)、電気・水・ガス代は契約者負担、電気料金は高目である。蚊の侵入可能な高さではあるが、総合的な住居条件はかなりよい。家賃コストを抑えるために、近々、同レベルで月額8万Rs (約6.5万円)の市内他地区のユニットへ引っ越す予定である。住み心地の快不快は問題が起きた時のオーナーの対応次第であると指摘した。オーナーが近くに住み適切な対応をしてくれるかどうかは、クチコミ情報が有益な判断材料となる。A夫妻のように人間関係をつくり、時間をかければ好条件の住まいが見つかる場合がある。

また、コロombo市内から北東に1～2時間離れるが、国際結婚した邦人女性が営む宿泊

施設¹⁸⁾がある。他に日本人が現地人に運営を委ねている宿泊施設¹⁹⁾もある。後者のサイトにはロングステイ情報の掲載があり、電話インタビューを試みたところ、月単位で滞在する邦人がいる。また、南へ約3時間の海辺のリゾート地ヒッカドゥには、月単位で滞在するヨーロッパ人がいる。しかし、コロンボ市内から離れると生活インフラが整っていないので、目的がない限り長期のロングステイ候補地にはなりにくい。

6 医療情報

シニアが海外に長期滞在中の場合、特に医療情報は最重要課題である。外務省在外公館医務官スリランカ情報及び在スリランカ日本国大使館情報や現地の病院のサイトで概要は得られるものの、病院と医師を詳しく知ることが難しい。駐在員家族の経験をもとに発行された「コロンボ医療情報」(2011.3)²⁰⁾が参考になるが、調査時から4年経過し情報更新が必要である。医療システムは、日本と異なり、オープンシステムである。



写真7 ランカ私立総合病院(5区)

一般外来と緊急外来の受診システム、特定医師の受診予約方法、緊急時の救急車の呼び方等の基本的な理解と具体的な行動が確実にとれる備えが不可欠である。海外での緊急時の備えの要点については、拙稿「マレーシア…生活インフラ事情」(2013)²¹⁾で整理済みである。コロンボの私立総合病院のコーディネーターや現地支援者の携帯電話にいつでも連絡がとれる体制をつくる必要がある。

筆者は、邦人が利用する5つの私立総合病院を視察した。2区のナワロカ病院、3区のダーダズ病院、5区のアシリ病院とランカ病院、10区のセントラル病院である。いずれの病院も清潔感があった。すべて英語でのやりとりである。微妙な病状を英語で伝えることが求められる。マレーシアのような医療通訳者の存在意義を再認識した。市内の移動には渋滞がつきもので、病院にたどり着くまで時間がかかる。デング熱、心臓や脳の病気、持病への備えが必要である。デング熱で入院し、約18万円を立て替え払いした邦人は、帰国後に国民健康保険の翻訳書類を提出して還付を受けたそうだ。日本の住民票を抜くと国民健康保険の恩恵は得られないので要注意である。

海外の長期滞在中には、海外旅行保険、クレジットカード付帯保険、国民健康保険が使用できるが、保険内容と使い方の理解が必要である。緊急時には大使館の医務官の支援を得る方法もある。

7 日本食材・生活物資の購入

コロombo市内2区に「アルピコ」「フードシティ・カーギルス」「キールズ」のスーパーマーケットがある。外国人滞在者や富裕層を対象に品ぞろえは充実している。キールズの棚の一部には基本的な日本食品が置いてあった。当地で最大規模のアルピコでは生活用品や電化製品も購入できる。



写真8 日本食専門店の調味料コーナー
(7区)

3区のコルピティ市場では新鮮な野菜、果物、魚類、肉類が購入できる。2階に日本人が利用する魚屋がある。3階には日本食材の購入可能な小売店「ピーマ」「ブランナ」があるが、品ぞろえは少ない。スリランカで一番の日本食材専門店は、日本人学校付近の7区にある「ジャランカ」という店である。経営者は日本人女性で、品ぞろえは充実しており調味料や基本的な食材をはじめ日本の酒や菓子類も置いている。いずれの店も輸入のため価格は日本の4倍程度する。その他、中華食材店や韓国食材店で米や豆腐などの購入が可能である。

滞在期間中、現地食を食したが、生活習慣病につながる揚げ物が多く、油分、塩分、糖分の多さが気になった。ロングステイ中の邦人シニアA夫妻は、調味料は日本食材店、野菜や魚はスーパーマーケットや市場で購入し、日本料理中心の薄味の食生活を心がけていた。

8 生活情報

1) 通信・通話

海外生活の必需品の一つが携帯電話とノートパソコンである。ガラケーやスマホで通話ができれば必要な情報のやりとりができる。ノートPCは検索、メール、スカイプができ、不可欠なものである。通信・通話のSIMカード販売店である「ダイアログ」や「モビテル」が至る所にある。滞在期間中、携帯電話とタブレットにSIMカードを入れて使用した。ノートPCはWiFiが利用できるホテルで利用した。当地ではノートPC用にルーターの役割をする「ドンクル」が販売されている。これはUSBスティックにSIMカードを入れてインターネット接続するものである。

長期滞在の相談の中に日本のテレビ番組の視聴がある。リアルタイムで視聴できるSlingBoxのアプリを起動し、タブレットとノートPCを利用してリモコンを操作し、映像の映り具合を確認した。日本の自宅で録画した番組も安倍首相来訪のニュースも視聴できた。

2) 銀行・両替

スリランカ紙幣への両替は、バンダラナイケ国際空港に入国後、出迎えホールにあるセイロン銀行支店で行える。両替率はコロンボ市内の銀行と変わらない。ホテルや両替所を利用するより安心である。コロンボ市内1区に24時間営業のセイロン銀行本店がある。コマーシャル銀行も利用した。万円単位の両替は、5000 Rsが含まれていて使用しにくいので、100 Rs、50 Rs、20 Rs紙幣を頼むと使いやすい。



紙幣 利用頻度の高い 100 Rs
(2014年9月 1 Rs ≒ 0.8円)

3) 物価と金銭感覚

給与や生活費について複数の現地人に尋ねた。ある銀行の大卒初任給 70000 ~ 80000 Rs、内戦終結後に雇用された軍人警察官 25000 Rs、三輪タクシーのドライバー約 20000 ~ 40000 Rs、メイドやドライバー約 15000 ~ 25000 Rs、小中学生を含む4人家族の月の生活費 25000 Rs 程度という回答を得た。普通預金の金利は約 6%、定額預金は年 10% 以上である。外資系ホテルの管理職クラスになると数十万円の給料をもらっている人がいた。

プリウスの新車が約 500 万 Rs、自家用車を所有できるのは富裕層に限られる。ガソリン 1ℓ 162 Rs、軽油 1ℓ 121 Rs、現地の給料からすると、燃料費は 1ℓ 約 1000 円相当の感覚である。庶民の足は 10 Rs、20 Rs で利用できる路線バス、初乗り 1km 50 Rs の三輪タクシーである。

現地の食堂を利用すれば、100 ~ 300 Rs で定番のライス&カレーやパンを食べることができる。安心して生野菜が食べられる店は少ない。マクドナルドのチキンサラダ 450 Rs、フライドライスと鶏のから揚げ、コーラ付のセットが 360 Rs である。マックのメニューからも食文化の違いを感じた。

日本料理店は少ないが、和食、丼物、居酒屋、寿司、宅配弁当などの店がある。宅配の「カフェジャパン」の丼物や弁当が 900 ~ 1400 Rs。和食の「日本橋」オディール店で寿司 1貫 180 ~ 300 Rs、丼物・定食 880 ~ 1800 Rs。品質と価格を考えると割高感がする。

その他、市内には中華料理、韓国料理、シーフード料理、西洋料理、ファーストフードの「ケンタッキーフライドチキン」や「ピザハット」などの店がある。現在、中国の経済支援額は日本を超えており、中国人の進出に比例して中華料理店の数が多い。1区にあるキングスバリーホテル内の「ハーバーコート」の夜ビュッフェは 1970 Rs⁺ で税込 2500 Rs である。税金分が 500 Rs で一般の現地の人が気軽に食べられる価格ではない。

一般に長期滞在の生活費の中で、住居費に続き食費の占める割合は大きい。それに医療保険や帰国費用なども加わる。一定レベルのユニットを年契約して、外食外出を控えた生

活をしても月額 15～20 万円程度の支出が見込まれる。

9 余暇利用とサークル

国際結婚をして 20 年近くコロンボに滞在する邦人女性は、当地の娯楽の少なさを指摘した。セカンドライフを楽しむシニアの長期滞在は、1～3ヶ月程度あれば観光や食べ歩きで余暇時間を過ごすことができる。しかし、それ以上の長期滞在となると目的がないと滞在しにくい。南国であるので花粉症、喘息、高血圧の患者には療養の意味がある。

大使館に在留届を提出している邦人は約 1000 名²²⁾、日本人会の会員数は約 60 社で約 270 名、日本人学校には駐在員の子弟が 28 名在籍している。在留届の約 1000 名と実質の居住者数は必ずしも一致していないが、居住者の概要を把握できる。3 区にある日本人会は、3 階建ての「ササガワホール」の 1 階の一部屋である。会員は、駐在員とその家族、政府派遣職員とその家族、国際結婚した邦人で構成されている。婦人部のサークル活動として、コーラス、ブリッジ、ビーチバレーボールがあり、それぞれ週 1 回活動している。会員数の多いクアラルンプール日本人会には、選択可能な約 60 のスポーツや文化のサークルがある。

8 区にはロイヤルコロンボ・ゴルフクラブがある。また市内各所でスポーツ、語学、アーユルベダなどの習い事もできるが、邦人の組織的なサークル活動は少ない。したがって、シニアにとって交流や情報交換の機会は限られる。充実したロングステイの条件のひとつは、関心ある活動を仲間と共に楽しむ機会があることである。年単位のシニアのロングステイでは、スポーツ、語学学習、創作活動、日本語ボランティアなどを通して、自ら人と交わったり社会貢献をしたりする時間をもつように努力することが重要である。

10 おわりに

本稿の目的は、スリランカ・コロンボの総合的な生活インフラの現状と課題を把握し、長期滞在者の相談活動に役立てることである。邦人シニアのロングステイへ向けた総括は以下の通りである。

- 1) 観光査証は 90 日まで延長可能、最大 180 日までの延長が認められる場合がある。
- 2) 55 歳以上のシニアには、更新可能な 2 年査証「Dream Home Visa」がある。その取得に必要な預金証明額はロングステイ一番人気国マレーシアに比べて高くない。
- 3) コロンボ市内であれば、長期滞在のための一定の生活インフラは整っている。
- 4) 邦人シニアの組織的なサークル活動はなく、情報交換の機会を得にくい。
- 5) 長期滞在生活のサポート会社はなく、英語力と自立した生活力が求められる。
- 6) コロンボでの年単位のロングステイは、明確な目的がある人に限定される。

現時点の在留邦人数は約 1000 名であり、総合的なロングステイ環境の成熟度は高いと

は言えない。月単位のロングステイであれば、利便性の高い市内の賃貸サービスアパートを拠点に行動すれば異文化を楽しむことができる。

スリランカの大統領選挙が2015年1月8日に実施され、現職のラジャパクサ氏が、マイトリパラ・シリセナ氏に敗れ政権が交代した。政策の見直しが予想されるが、日本との関係や観光施策は引き続き重視されると考えられる。

注及び引用文献

- 1) 清水孝則『世界の資産家はなぜスリランカに投資するのか』幻冬舎, 96頁, 2013. スリランカは海運, 航空, 商業, 知識, エネルギーさらに観光の6分野で経済振興施策を実施している.
- 2) 前掲書1) 146頁.
- 3) インフラ: インフラストラクチャー (infrastructure) の略. 国家・社会などの経済的存続に必要な基本施設を意味する. 「インフラ」は既に市民権を得ていると考えて使用した. 背後に会社という組織のある駐在員と異なり, ロングステイヤーは自己責任で行動しているため, 滞在国, 滞在地におけるサポート, 医療, 住居等々の生活情報が重要である.
- 4) 現地調査期間 2014年8月30日~9月10日
- 5) 2007年から財団法人ロングステイ財団主催で研修講座が開催された. 財団が一定水準と認めた場合, アドバイザーとして登録される. 筆者は2008年に登録ロングステイアドバイザーとなって以来, 相談活動の一翼を担っている. アドバイザーは, ファイナンシャルプランナーや旅行業界に勤める人のほか, 駐在経験やロングステイ経験のある人が多い.
- 6) 本田孝子他5名「コロンボ タウンページ 改訂版」スリランカ日本人会婦人部, 2013.
- 7) JICA のスリランカ生活情報 www.jica.go.jp/regions/seikatsu/...att/SriLanka-p.pdf
- 8) スリランカの居住邦人が生活&旅行情報を発信するブログ「スリランカ まみむメモ」 www.slmemo.com/
- 9) スリランカ政府観光局の日本支局 (現在閉鎖2014年8月より) に問い合わせ, 現地旅行社 Yathra Travel 等の情報を得た. スリランカ日本人会 (広報担当三谷理事), 生活情報を発信している管理人 (Tami de Kretser 氏) などと連絡を取った.
- 10) クアラルンプール国際空港 KLIA (Kuala Lumpur International Airport) に新設された KIIA2 (LCCT) は予定よりも完成が大幅に遅れた. KIIA と KIIA2 はブリッジで結ばれ, 乗り継ぎの利便性が増した. 発着はできる状態であるが, 工事中の施設もあった.
- 11) 現地旅行社 YASMEEN TRAVELS の日本人を対象にしたイーツアーズ (日本人スタッフ常駐) に依頼した場合, 日本語サイトからの見積りが可能である. <http://tours.yassmeen.jp>
- 12) Research & International Relations Division 『2012 Annual statistical Report』 Sri Lanka Tourism Development Authority.2012. <http://www.slttda.lk/statistics> のツーリズム調査統計.
- 13) Department of Immigration and Emigration Sri Lanka スリランカ電子査証取得サイト <http://eta.gov.lk/slvisa/>
- 14) My Dream Home Visa Programme の詳細 <http://www.immigration.gov.lk> 明記された年は不明であるが, ある邦人滞在者は2010年には規定を確認している.
- 15) リタイヤメント査証 (長期滞在関連査証) については, 以下を参照のこと. 山田美鈴/森田美智恵編「ロングステイ調査統計2013」一般財団法人ロングステイ財団, 93-118頁, 2013.
- 16) L.R 氏の住居は, セキュリティの厳しい大統領官邸に隣接する植民地時代の建物を利用した高級ユニットである. 2014年9月3日, そこでインタビューをおこなった.
- 17) スリランカ物件サイトの賃貸サービスアパート情報 <http://www.lankapropertyweb.com/> <http://www.ikman.lk>

- 18) Minuwangodaにある日本人女性経営のGuest House AILANKA 情報 <http://guesthouseinlanka.jimdo.com/>
- 19) Veyangodaにある日本人経営の宿泊施設情報で運営は日本語が話せるアニーシャ氏 <http://www.hghg.jp/hotelpriyamni/>
- 20) 「コロombo医療情報」(2011)は「ヘルスサポートネット in コロombo」が、医療システムや駐在員家族の病院体験を掲載した情報であるが、病院や医師については客観的に評価したものではない。
- 21) 黒田明雄「マレーシア・ジョホールバルにおけるMM2Hビザ取得件数増加の要因と生活インフラ事情」倉敷芸術科学大学紀要第18号, 139-141頁, 2013. 在マレーシア日本国大使館JB出張駐在官事務所やセカンドホームへのインタビューにより病院を利用するための緊急時の備えをまとめた。
- 22) 2014年9月1日, 在スリランカ日本国大使館石動領事に行ったインタビューによれば, 2014年5月時点の在留邦人状況は1011名. 地域別ではコロomboに約500名, キャンディ32名他… 3ヶ月以上滞在しても在留届を提出しない場合や帰国届を出さない場合があるので, 概数は把握できていても正確な邦人数を把握することは難しいとのことであった。

参考文献・資料

- 山中一郎他3名訳『南アジアの国土と経済 第4巻 スリランカ』二宮書店, 1990. 原書B.L.C.johnson/M.Le M.Scrivenor『Sri Lanka; Land, People and economy』Heinemann Education Books, 1981. 地理学者の調査研究を翻訳した訳書である. 1980年以前のスリランカを理解する上で資料的価値がある。
- 杉本良男編『アジア読本 スリランカ』河出書房新社, 1998. 発行から16年が経過したが, 滞在経験を踏まえて記述された内容はスリランカ社会を多面的に理解する上で貴重な資料的価値がある。
- Embassy of Sri Lanka in Tokyo 在スリランカ日本国大使館 <http://www.lankaembassy.jp/>
- Embassy of Japan in Sri Lanka 在スリランカ日本国大使館 <http://www.lk.emb-japan.go.jp/indexjp.html>
- 移動に重宝するコロombo市内の路線バス図「Bus Routes Map of Colombo and Suburbs」Arjuna Consulting
コロomboの状況は変化しているが, 主要建物を記載した道路地図は移動の必需品『A-Z STREET GUIDE』Arjuna Consulting, 2011.
- Ryan Ver Berkmoes/Stuart Butler/Amy Karafin『Lonely planet Sri Lanka』Lonely planet Publications, 2012.
- 崎重雅英「スリランカの最新経済事情」ジェトロ・コロombo, 2013. www.jetro.go.jp/world/seminar/107/material_107.pdf
- 地球の歩き方編集室『地球の歩き方 スリランカ 2014-2015』ダイヤモンド社, 2014.
- スリランカ政府観光局日本語公式サイト <http://travel-srilanka.jp/> 現在, 日本語サイトは閉鎖されているが, 2014年7月時点でのスリランカ政府観光局日本語サイト情報である。
- DTAC スリランカ観光情報局公式サイト <http://www.dtac.jp/asia/srilanka/>
- スリランカ出入国管理局公式サイト査証情報 Department of Immigration and Emigration <http://www.immigration.gov.lk/web/>
- 現地旅行社 Yathra Travel の東京支店によるスリランカ情報 http://www.yathrajapan.com/p/blog-page_8855.html

Longstay Situation for Japanese in Colombo, Sri Lanka — On the Basis of Research in 2014 —

Akio KURODA

*College of Science and Industrial Technology
Kurashiki University of Science and the Arts,*

2640 Nishinoura, Tsurajima-cho, Kurashiki-shi, Okayama 712-8505, Japan

(Received October 1, 2014)

The purpose of this paper is to grasp the present conditions and problems of the general life infrastructure of Colombo, Sri Lanka and to help longstayers through my consultation activity.

The generalization for Japanese senior longstayers is as follows.

1. The tourist visa can be extended to 90 days, and its extension up to 180 days may be accepted.
2. 55-year-old or over senior longstayers can get the two-year visa of My Dream Home Visa which can be renewed. The amount of deposited money required for the visa acquisition is not high compared with that of MM2H of Malaysia which is the most popular country for longstayers.
3. The life infrastructure to stay long in Colombo is almost ready.
4. There is not the organized club activities for Japanese senior longstayers, and it is hard to get an opportunity to exchange their information.
5. “Colombo Town Pages” and “Colombo Medical Care Information” serve longstayers as good guidebooks for living.
6. There is no support company for longstayers, and English ability and vitality for living independently are necessary.
7. Long-term stay such as stay for one year or more in Colombo is suitable for the person with a clear purpose.

The number of Japanese residents who live in Sri Lanka at the present is approximately 1,000, and it cannot be said that the general longstay environment is ripe.

In case of long-term stay such as stay for several months in Colombo, renting serves apartment in convenient places in the city will be satisfying to longstayers to enjoy life in different cultures.